

## アジア地域における建築環境と Sustainable Development

～アジア地域の建築環境の実態～

発展著しいアジア各国のエネルギー消費量の増大は地球温暖化を助長させる大きな要因である。当小委員会ではアジアの都市とその周辺の農村部における住宅エネルギー消費量の実態や居住環境要因と住宅エネルギー消費の関連性を構造的に明らかにし、ライフスタイルを考慮した将来予測を行なうことにより、エネルギー消費の増加を押さえつつ快適で健康な室内環境を実現するための省エネルギー政策の基礎となる資料を整備することを主要な目的とし活動してきた。本シンポジウムではカンボジア、マレーシア、インドネシア、ベトナムをはじめ、中国都市部および農村部の居住環境とエネルギーに関する実態調査の結果や省エネ技術の効果の検証結果を報告する。

主催 地球環境委員会

アジア地域における建築環境と Sustainable Development 検討小委員会

日時 11月24日(水) 13:00～18:30

会場 建築会館3階会議室

内容 趣旨説明 銚井修一(小委員会主査:京都大学)

1. アジア地域の建築環境解析と設備設計用気象データベースの開発 張晴原  
(筑波技術大学)
2. カンボジアの居住環境とエネルギー消費 高口洋人 (早稲田大学)
3. 高温多湿なマレーシアにおける住宅のパッシブクーリング手法 久保田徹(広島大学)
4. インドネシア、マレーシアにおけるエアコンの設定温度に関するアンケート調査  
銚井修一(前掲)
5. ベトナムの家庭部門における Demand Side Management による電力需要増大の抑制  
中上英俊(住環境計画研究所)
6. ヤオトン、チベット、内モンゴル民居の Sustainable Development  
吉野泰子(日本大学)
7. 中国都市部の居住環境とエネルギー消費 吉野博 (東北大学)
8. 中国の建築エネルギー消費と温室効果ガス排出実態 外岡豊(埼玉大学)
9. 中国の非住宅建築エネルギーの現状と省エネに向けた検討 高偉俊(北九州市立大学)

総合討論

まとめ 吉野博(前掲)

定員 70名(当日先着順)

参加費 会員 2,000円 登録メンバー3,000円 会員外 4,000円 学生 1,000円  
(資料代含む)

問合せ 事務局 研究事業 G 森田